食う寝るところに住むところ

銅賞

木内　俊輔（きうち しゅんすけ）
千葉県立東総工業高等学校　建設科

――会社や学校などでたくさんのストレス、不満を抱えて生きている現代の人に心と体が安らぐ光と家族をつなげる家

陽の光は体や心を豊かにし、光には場を開放する力があります。光を目一杯取り入れられるように窓を多く設け、天窓や吹き抜けでさらに光がさし込みます。部屋や浴室は開放的に、菜園も設けることで家族でのコミュニケーションをとりやすいようにしました。自分にとって心地よい場がこの家に見つかるはずです。

講　評

日常、作者が社会に対して何を感じ、人間としてどう在るべきが、どの様に生活する事が心も身体も健康で社会の荒波に果敢に挑めるかをテーマにした住宅。

現代社会の問題点を建築という行為により解消する提案であり、様々なアイディアを盛り込む事でアメニティ空間の創造を行った作品である。

人間の五感をくすぐる要素を随所に創出し、通風・採光条件を高め、視覚的操作により開放感を演出し、自然との共生も考慮し、作者の建築に対する日常の問題意識の高さを感じられた。

屋上から注ぐ陽、屋上緑化と水盤によるパッシブデザイン化等が評価を高めている。

吹抜けを設けながら、上下階の連携を強固なものにする姿勢が窺えるが、コミュニティを向上させる方法は室用途を踏まえ検討の余地があることを提議したいと感じた。

しかしながら、作者の建築に対するアイデンティティの独自性が素晴らしいと感じられた秀作である。

（審査委員：小島 広行）